

第4回看護研究会

(管理者研修会)

令和2年12月9日(水)

ZoomによるWeb開催

(受講会場：岡山県医師会館)

[午前]

講演① 『看護師の働き方改革に貢献する組織づくりを考える
～セル看護提供方式[®]実現への挑戦から～』

講師 株式会社麻生 飯塚病院 副院長兼看護部長 森山 由香 氏

講演② 『セル看護提供方式[®]による働き方改革の実際
～組織に求められる人材育成の取り組み～』

講師 株式会社麻生 飯塚病院 看護管理師長兼病棟師長 和田 麻美 氏

[午後]

講演 『腰痛予防に組織として取り組むこと、システム作りについて』

講師 ナチュラルハートフルケアネットワーク 代表理事 下元 佳子 氏

一般社団法人岡山県病院協会

(注：類似した感想はまとめています。)

第4回看護研究会（管理者研修会）のアンケート集計（令和2年12月9日）

（40病院101名 出席 ・ 53名 回答 ）

1. 講演①『看護師の働き方改革に貢献する組織づくりを考える ～セル看護提供方式[®]実現への挑戦から～』

（講師：株式会社麻生 飯塚病院 副院長兼看護部長 森山由香氏）

講演②『セル看護提供方式[®]による働き方改革の実際 ～組織に求められる人材育成の取り組み～』

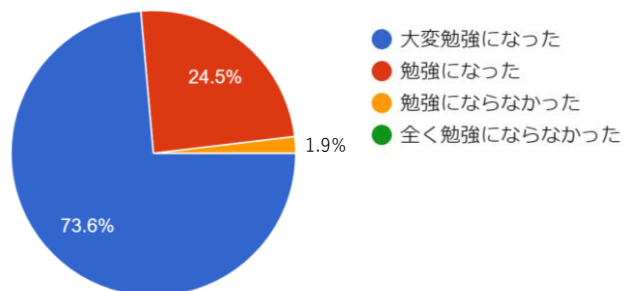
（講師：株式会社麻生 飯塚病院 看護管理師長兼病棟師長 和田麻美氏）

を聞いて。

A.

a. 大変勉強になった	39名
b. 勉強になった	13名
c. 勉強にならなかった	1名
d. 全く勉強にならなかった	0名

未記入0名



B. 感想があれば一言。

- ・ もっと知りたいと思った
- ・ 新しい取り組みとして参考にしたい
- ・ 参考になった。職場でも活用していく
- ・ 現在実践している看護の修正と改善に役立てる
- ・ 興味があって参加したので、期待以上に良かった
- ・ できることから始めよう・やってみようと思う(2)
- ・ 人材育成の解決策になる話があり、参考になった
- ・ 看護師の数さえ揃えば、魅力的なシステムと感じた
- ・ 病棟でも色々取り組んでいるが、変革に抵抗があるスタッフに対し難渋していたが、飯塚病院でも数年かけて改善を繰り返し行っていることを知り、頑張っ取り組もうと思った。和田先生のPPの資料が欲しい。講演中メモをしたが、今後取り組んでいくうえでぜひ資料がいただきたい
- ・ 当院でも方式採用をお願いしたい。検討しているので参考になった。補完されていないスタッフにはどのように指導すればいいか
- ・ 現在チームナーシングを行っているが、モチベーションを上げることや、患者への対応などいつも考えさせられている。個別性を出すため症例検討なども行っているが、今日の研修で今後の検討をしていきたいと思った
- ・ 興味深く拝聴した。和田講師の資料も配布していただき良かった
- ・ 新しいことを取り入れる時は根気よくスタッフに根拠を説明し、言い続けることが大切であることが分かった
- ・ 熱意が大事。繰り返し言い続けることが大事。頑張ります！
- ・ 看護方式が定着するための看護師長の役割、取り組みが分かった。とても勉強になった
- ・ 看護カルテが電子化になったので、活用方法の参考になった
- ・ 質疑応答が明快で、よく研究しつくされた講演だった。大変参考になった
- ・ できないではなく、今できることをやる
- ・ 勉強になった。ありがとうございました
- ・ 自施設でも導入できないか検討していきたい
- ・ 自分に欠けていたことが明確になった

- ・ 可動式パソコンの導入が決定したらぜひ取り入れたい
- ・ セル看護提供方式には興味があったので、直接経緯等を聞くことができてよかった
- ・ 自院で取り入れられるか否かは検討していかないといけないと思うが、残務が減ることに対しては、何らかに取り入れられるものがあるのかと感じた
- ・ 日勤者はセル看護方式でもいけそうだが、夜勤は少し難しいのではないかと思った。今は継続受け持ち別だが、この方式は看護計画の評価・修正は誰が行うのか知りたい
- ・ P N S や、いろいろ看護方式が新しくできるのだなと思った。自施設で取り入れるにはいろいろハードルがありそう
- ・ 組織として事に取り組むことの大事さ、また現状の見直しを行い、ムダを見つけて省く、整理するなど、できることを実践していこうと思った
- ・ 患者さんにどんな価値を提供できたか？ 大変さをやりがいに変えたい。今一番の悩み
- ・ 理想的で自分自身も目指したいが、現実的には難しい
- ・ 患者さんのところに足を運んで関わること、スタッフのモチベーションを UP させる声かけ、とても勉強になった
- ・ 時間外業務のスリム化を自覚し、働きがいのある職場づくりに役立ててみたい
- ・ セルを導入していく方向で準備中であり、師長としての役割もよく分かった
- ・ 今までの固定概念を捨て、セル看護提供方式導入に向け検討していきたい。患者に提供する看護提供方式が変化しただけで、離職率・満足度の変化にびっくりした。看護師長が変わらないと病棟は変わらないことを知った
- ・ 自分の病棟でどのように取り入れていくかを検討したい。よりよい環境を作りたい
- ・ セル看護提供方式がどういうものかという全体像がつかめた。ただ、小さな仕組みや複雑な仕掛けが、他部門との調整を含めたくさんありそうだった
- ・ 現状問題・課題について重く感じた。自分の進むべき、想いを伝えることが大切
- ・ 今病棟ではセル方式を導入していないが、利点や考え方を教えていただいて勉強になった
- ・ 患者の側で患者のことを見守りながら仕事をする、他の職種と連携できる、そういう理想を持って看護師になったはずなのに実際には「できないできない」と口にすぐ出てしまう看護師になってしまっていた。昔は当たり前で終わっていないスタッフを手伝うということも、チームだなんだとって手伝えないスタッフにも仕方ないで済ませてしまいがちだった。講義を聞き、また初心に戻ってできることから始めたいと思った。本当に大変なご苦労もあったと思うが、勉強になった
- ・ エリア別を始めた時にセル看護方式を取り入れた。始めの頃は部屋回りやケアが終わるとナースステーションに帰ってくる癖？があったが、今はエリアにスタッフがいる現状はあると思う。これからも患者の側で仕事ができるという環境づくりを定着していければと思った
- ・ 以前飯塚病院へ見学に行かせていただき、働き方改革の実際を目で見て、自院でもできないかと取り組んでいた。が、実際なかなか思うように進まず、タイムスケジュールも作ってはみたがその通りにいかないと使用せず、今回改めて講演を聞き、改革・改善のために何ができるのかどうしからいいのかわかり、少し明確に分かってきた。ありがとうございました
- ・ 講演を聞いていてメリットが沢山あることが分かった。しかしデメリットについてや自院の勤務形態のバラつきなどが、本当にセル方式に合っているのかもよく考えて、導入には慎重に対応した方がよいと感じた

- ・ 自部署も入退院が多く多忙であり、楽しみながら看護が行えているとは言いがたい。大変さをやりがいに変える、楽しいと思えばやりがいに繋がるという考えは刺激になった。時間軸を意識することも自部署ではなかなかできておらず課題である。管理者が時間のマネジメントを率先して行わなければならないことを学んだ
- ・ 看護師間の力量差をカバーするためのマニュアルや手順等が完備されているものと考えているが、看護師教育・研修やラダー活用の有無等、能力向上のためのシステムを知りたかった
- ・ 夜勤で手術患者、せん妄認知患者がいるときはどう対応しているのだろう

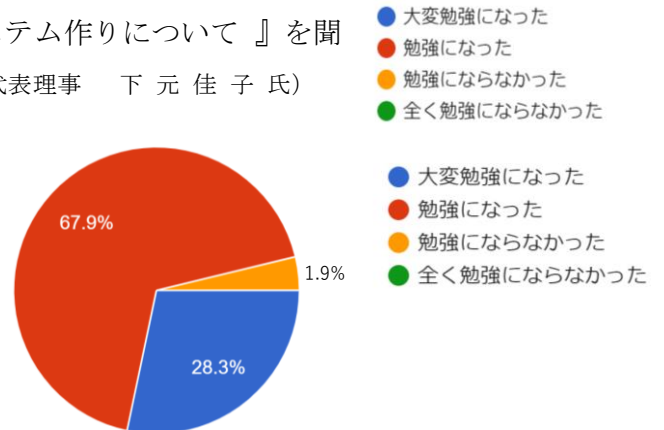
2. 講演『腰痛予防に組織として取り組むこと、システム作りについて』を聞

(講師：ナチュラルハートフルケアネットワーク 代表理事 下元佳子氏)

A.

a. 大変勉強になった	15名
b. 勉強になった	36名
c. 勉強にならなかった	1名
d. 全く勉強にならなかった	0名

未記入1名



B. 感想があれば一言。

- ・ 組織的に取り組むことが必要
- ・ ヒヤリハットなんですね
- ・ 介護補助具の活用
- ・ インシデントとしてとらえていく
- ・ 腰痛について真剣に考えていきたい
- ・ リハビリ職から看護の視点を聞くことができてよかった
- ・ 組織で取り組むことを感じた。効率の良い働き方が大切と感じた
- ・ 福祉用具を上手に利用していかないといけないと思った
- ・ 腰痛がリスクマネジメントという考えはなかった
- ・ 自分の体を守ることは業務遂行のうえで非常に重要なため、学びを活かしたい
- ・ 腰や手を痛めるのは職業病・仕方ないことという思いがあった。そうではなく、ノーリフティングの考え方を知ることができ、対策チームはないが、自分の身を守ること・患者の安全安楽はイコールであり、今後もっと勉強していきたいと思った
- ・ 物の置き方、仕事の仕方、姿勢からリスク調査を行って解決していくことが重要だと分かった
- ・ 実際、現場では患者のケア等で体調を崩すスタッフも多くいるので、用具を使用することで負担軽減につながることを、そういった用具があることが分かった
- ・ 自院でもスライディングシートは取り入れているが、使用者の姿勢までは全く考えておらず、腰痛リスクが高いことを知り、知識不足を痛感した。職員を守ることを通して患者を守る。大切に
- ・ 安全で働きやすい職場を整え、職員を守ることで患者を守れることが分かった
- ・ トランスファーが参考になった。腰痛は看護部が抱える悩みなので解決の参考にしたい
- ・ 日頃の業務が腰痛を起こす要因として重視しなければならないことが理解できた
- ・ 職員の健康を守っていくため取り組んでいきたい
- ・ 参考にしてこれから取り組む
- ・ 改めて福祉用具を使う大切さを感じた
- ・ 腰痛予防に対する意識が変わった
- ・ 必要性は理解できるがコスト面で問題が

- ・ 腰痛予防とリスクに関連があったことがわかり参考になった
- ・ 上手く用具を使用し、自分達自身も知識を利用して上手く移動介助することが分かった
- ・ 介助者にもそうだが、患者さんにも影響があるため、用具等を使用し安心安全にできることを心掛けたい
- ・ 入浴時のノーリフトを実践しているが、まだまだ先は長そう
- ・ 腰痛予防対策指針の管理体制について、管理者としてもっと学ばないといけないと痛感した
- ・ ノーリフトケアをすることで、腰痛を防げることが分かった
- ・ 腰痛予防対策指針という存在を知らなかったのも、教えていただけて本当によかった
- ・ 腰痛予防対策指針を恥ずかしながら初めて知った。リスクマネジメントとして取り組んでいきたい
- ・ 腰痛＝「がんばります」「大丈夫です」に頼ってはいけない。対策を要す
- ・ 腰痛予防は、個人的に予防が大切であると思っていたが、今回の研修で管理者が予防に取り組んで行くことが重要であることが理解できた
- ・ 腰痛予防対策指針については全くの勉強不足だった。看護の世界や介護の世界で、どちらも人員不足であることは現在の大きな課題と思う。腰痛により看護職を辞めてしまわなければならない人も身近にいたこともあり、腰痛とは単なる症状だけでは済まされないと感じている。そこで求められていることが管理体制であるということ新たに学ぶことができた
- ・ 恥ずかしながら腰痛予防対策法も知らなかった。ノーリフティング、本当に参考になった。祖母の介護をしていて少し知っている気ではいたが動画を見て知らないことが多く、自院でもスライダースとしてシートを使うことが多いが、使い方ももっと正しく皆に伝えていきたいと思った
- ・ 脳外科の患者さんは寝たきりやマヒがある方が多い中、ケアにあたるスタッフからは腰痛を訴える人がいる。ノーリフティングケアは大変重要であると感じた。人手不足で、スタッフ一人で身体の大きな患者さんのケアを行うことも少なくない。スタッフを守る意味でもリスクマネジメントを実践していくべきだと感じた
- ・ 腰痛に対する認識の低さを感じる講義だった。管理者として、行わせないことが重要であることを学んだ。機械化されている最新の情報も知ることができ、ノーリフティングで看護師も患者もメリットがあることを考えながら、腰痛予防に対する視点を持って管理を行えるようにしたい
- ・ 組織で取り組むことで予防できることは理解できたが、福祉用具を利用するとなるとコスト面もあるので、難しいのでは・・・と感じた

3. 今日の講演を聞いて、あなたが活用できる箇所は何ですか。

- ・ 病院として看護部として、考えていく問題だと思った
- ・ どちらも業務に活かせるようにしたい
- ・ 看護師の働き方と組織づくり
- ・ 浸透させ継続させる努力がいる
- ・ セル方式は検討する方針
- ・ セル看護方式の働き方改革
- ・ 腰に負担をかけない介護
- ・ ノーリフトのリスクマネジメント
- ・ 業務改善と新たな看護体制について考えること
- ・ 働き方改革について、アセスメントしていきたい
- ・ 目的と目標を示す
- ・ 組織的に考える
- ・ 看護体制を検討するうえで活用できる
- ・ セルについての導入、組織作り
- ・ セル看護提供方式の検討
- ・ 車イス移乗時
- ・ 早急な腰痛対策。まず現状調査

- ・ 看護体制の修正・セル方式や補完の正しい取り組み
- ・ 看護方式を考えていくうえで知らないスタッフには説明を行い、今後の管理方式を考えていく
- ・ 看護師長としての取り組み、ビジョンを明確にして理解して実践していく
- ・ 自施設でも良い点はあると思うので、そこは伸ばせばよいと思う
- ・ 組織としてのシステム作りには、他職種との協力が必要なので、業務整理とコミュニケーションの構築を図りたい
- ・ 自分の無駄な部分は何かを考え直し、意識的に患者様の傍にいる。できないことを考えるのではなく、何ができるかを考え、考え方自体を変えてみる
- ・ まごころのケア、スタッフに常に関心を寄せモチベーション UP に繋がる声掛けを行う
- ・ 勤務時間内に業務のマネジメントができるように仕事の采配をしていきたい
- ・ 退勤時には帰れるようにタイムスケジュールの在り方や、看護師長がラウンドし、補完や業務調整をし、後任者を育てる。情報収集の仕組み、標準化の仕組みづくりを行う
- ・ 病院の規模や、患者が高齢で理解できる方ばかりでないので、どこまで看護提供できるか分からないが、自施設でも何か工夫できないか検討していきたい
- ・ 業務改善を行うときは、PDCA サイクルを回し、新しいことが浸透するようにする
- ・ 病棟内の業務スタッフ配置や業務負担への改善を考えた関わり方を見直したい
- ・ 何を行動するにしろ、組織づくりが大切である。PDCA サイクルを廻し、何が問題なのか確認しながら行っていく
- ・ 看護提供方式はすぐに変えられなくても、業務の「流れ」の無駄を省くことはできそう。また、タイムスケジュールも活用できそう。腰痛予防の介護者の姿勢、体の使い方は職員を守るために早急に伝えていかなければならないことだと思う
- ・ 今できることは何か。人、物、金、時間がなくてもすぐできることを明日から始めようと思った。まずはしっかり師長さんたちと話をする
- ・ 飯塚病院の改善を参考に、ベッドサイドにいられるように、ムダ取り、時間管理、補完マニュアルの作成など取り組んでいきたい
- ・ セルの師長としての、流れの管理と補完の徹底（全員が定時に帰れるように）
- ・ セル看護提供方式に変えていくための学習を深めていきたい。補完については、今からでもできると感じた
- ・ セル看護方式は以前から興味があったので、弊害などどう切り抜けたかを聞いて参考になった。導入できるかは困難なこともあるが、部長の熱意を何度も伝えるということから勇気もらった
- ・ 何かを決めて進めるときは、ぶれない目的を持ち、スタッフと一緒に PDCA サイクルをまわす
- ・ 目指すところは代が変わっても受け継がれることが分かった。繰り返し言い続けていこうと思う
- ・ 組織づくりには目的の共有が必要。声を聞きながら言い続けること
- ・ 補完という作業はリーダーとしても必要なことなので、活用できると思う
- ・ 補完シートは全体を把握するのに使用できそうだが、上手く活用できるかはよく分からない
- ・ コロナ渦のなか多忙で人手不足の現状があるが、忘れてはいけないことがあること、患者に寄り添う看護についてスタッフに考えてもらう機会をつくりたいと思う。看護を楽しんで働いてもらいたいために自分ができることをしていきたいと思う
- ・ 先取り看護ができるように、患者の側に居る時間を少しでも長く確保する。時間軸の意識を高く持ち、時間をマネジメントする努力をする

- ・ セル看護提供方式の活用検討、腰痛インシデント報告の実践から始めたい
- ・ 腰痛予防に組織で取り組めるように考えていければいい
- ・ 腰痛を予防するための体の使い方を組織として全体に周知していくこと
- ・ リスクマネジメントの体制作りを強化して、事故が起きる前に解決していきたい

4. 次年度の研究会に希望する講師案と研修内容があれば、ご記入ください。

- ・ 人材育成に関する内容(2) ・ コロナ対応におけるスタッフへの関りについて
- ・ 中途採用者の教育について ・ 病院における看護補助者や介護福祉士の活用について
- ・ 管理者としての教育の仕方 ・ アシスタントとの協働の在り方や動機付けについて
- ・ 人材の有効活用について (外来との一元化)
- ・ コーチング・・・(一社)日本看護コーチ協会理事 福島規久夫 先生
- ・ 今年度新人も、来年度参加できるような会を企画していただけたらうれしい
- ・ パワーハラスメントにならない管理者の発言、指導方法について
- ・ スタッフのやる気をあげる指導や声かけの方法
- ・ 肩痛予防 ・ 認知症の関わりを学べる会があれば参加したい
- ・ 診療報酬について知りたい ・ 在宅医療と往診について
- ・ 視点を変えた講義をお願いしたい。今日の講義は勉強になった
- ・ 働きやすい勤務形態について。育児休暇明けの看護師の勤務免除により、負担となっていることが多々あり、夜勤看護師不足の解消などに着いて学びたい
- ・ 業務を改善するためには少しずつ変革していきたいと感じた

5-①. 今回の Web 開催はいかがでしたか？ 参加された感想やご意見を、ぜひお聞かせ下さい。

- ・ 気軽に参加できてよかった ・ 会場と違って質問がしやすかった
- ・ 思ったより見やすかった ・ 対面でなくても十分良かった
- ・ web 会議の参加は感染上いい ・ 感染対策の面から必要を感じた
- ・ ZOOM 参加のため会場移動が短縮できた ・ このような研修も時間的によいと思った
- ・ 院内で受けられたことがよかった ・ 自施設で行われたため、参加しやすかった
- ・ しっかり繋がりが分かりやすかった。ありがとうございました
- ・ トラブルなく、スムーズな研修でよかったと思う
- ・ 画面も見やすく、講師の先生の声も聞き取りやすかった
- ・ 思ったよりはっきり見えて聞こえて、問題ないと思った
- ・ web 環境も問題なく移動する時間がなく時間が有効に使えた
- ・ 途中聴き取りにくい場面があったが、出掛けなくて良いので大変楽
- ・ 移動に要する時間短縮、感染対策によい。ネット環境の調整、音声等課題も
- ・ 感染から考えて今は、Web のほうが受講しやすいのでいいと思う
- ・ 会場までの移動時間が削減されて良かった。音声の調子がよければ Web の方が楽
- ・ 会場へ行くまでの移動時間がなく、楽だった。問題なく受講できたのでリモートでよいと感じた
- ・ 移動時間がなく、研修に参加しやすいので、大変よかった。直ぐにスタッフにフィールドバックできるのも良いところ

- ・後半、音声が届かないことがあったが、映像も分かりやすかった。病院で行えるので、移動距離もなく、業務に戻れるので便利
- ・会場までいなくても、貴重な研修が受けることができとてもよかった
- ・移動がなく講演を聞くことができよかった
- ・開催地まで行かなくてもよい、ということで参加しやすいと思った
- ・初めてのズーム参加だったが、出かける時間の短縮にもつながり良かったと思う
- ・交通手段を考えることもなく、安全で経済的にも有効な手段であり継続してほしい
- ・慣れたらこの形式でもよいかと思う。自施設で視聴でき業務的にありがたい。受講料に関して検討の余地あり
- ・現状のことを考えると Web は助かる。また会場までの移動を考えてもよい
- ・遠くまで行かなくて済み、密にならなく、自施設で受講でき良かった
- ・病院で研修を受けることができ、移動時間を考えなくてよかった
- ・時々聞きづらい点があったが、新しい生活様式には適していると思う
- ・静かでソーシャルディスタンスにも配慮されて、ゆっくり研修に参加できて良かった。Web にすればもう少し研修参加費が安価になり、参加者が増えると思う
- ・映像や音声が届くこともあまりなかったのが良かった。職場のネット環境がちゃんとしたら、参加人数を増やせると思った
- ・モニターも見やすく、分かりやすい講演だった。規模は違うけれどセル看護提供に興味を湧いた
- ・受講会場で Web に参加できてよかった。次年度からも今年度のような開催を希望する
- ・直接の講演を聴きに行くことが難しい、遠方の先生方の話を聞けるようになり、大変貴重な会だった
- ・慣れてくると案外いいかも知れない。ただ、迫力や熱量は伝わりにくい
- ・Zoom のやり方を知り、自宅で気軽に参加できるようになれたらいいと思った
- ・今後はこのようなスタイルになっていくのだなあと思ったが、集合研修のメリットも活かせるような Web 講義になるといい（グループディスカッションとか）
- ・会場の設定が悪かったのか、画面が切れて見えない部分があって残念だった。資料があった講義はよかったが、資料がないと画面が切れていたので見えにくかった（病院で参加された方）
- ・音声が届いたり音声が聞こえにくいことがあり、動画など少し分かりにくいところもあった。会場まで行かずに、自施設で受講できるのはよかった
- ・おおむねはよかったが、音声が届かない場合もあり、声が聞きづらかった。時折フリーズしたり乱れたりしたので見にくい部分があった
 - ・カメラを ON にする必要があるか
- ・ところどころ音声が途切れて残念だった
 - ・声が聞こえづらいところがあった(2)
- ・いつも新しい話題で楽しみにしている
 - ・とても興味ある内容で勉強になった

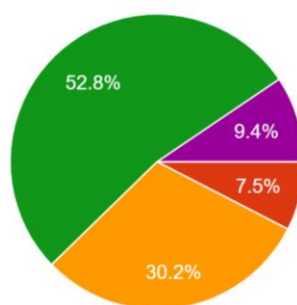
5-②. Web 開催はどこで参加されましたか。

- a. 受講会場（岡山県医師会館）（13名）
- b. 病院（勤務先）（30名）
- c. 自宅（9名）
- d. その他（1名）

◆ 参加者の状況

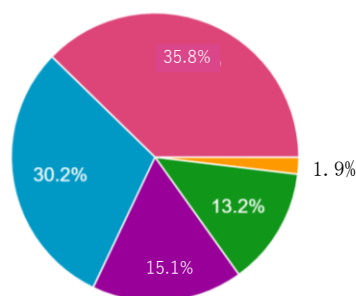
【年 齢】

20歳代	(0)
30歳代	(4)
40歳代	(16)
50歳代	(28)
60歳代	(5)



【勤務年数】

5年～10年未満	(0)
10年～15年未満	(1)
15年～20年未満	(7)
20年～25年未満	(8)
25年～30年未満	(16)
30年～	(19)
未記入	(2)



【役 職】

看護部長・看護総師長	(12)
看護次長	(1)
看護師長	(23)
副看護師長	(7)
主任・副主任	(8)
リーダー	(1)
看護師	(1)